

鹿部町旧役場庁舎等周辺地域再開発プラン策定業務

報告書【要約】

令和8年3月16日
鹿部町 企画振興課

① 業務内容

1 業務内容

本件業務は、鹿部町旧役場庁舎及びその周辺地域の賑わいを創出に資する具体的な再開発構想を策定するとともに、当該事業に関する理解促進と住民参画を促進することにより、地域住民及び関係団体等との連携による持続可能な事業運営体制と当該事業を通じた地域活性化に資する事業を構築に寄与するプランを策定するもの。

2 業務受託者

一般社団法人いとのこ

3 業務期間

令和7年7月15日から令和8年2月27日まで

② 各種ヒアリング結果

1 座談会

本事業により実施した複数回の住民ワークショップおよび個別ヒアリングの内容を整理するとともに、浮かび上がった論点を整理する。

(1) 座談会・ヒアリング実績

7月25日	： 民生委員会/老人クラブへヒアリング	16名	
8月14日	： 成人式へのアンケート	14名	
8月15日	： 盆踊りにてヒアリング	7名	
9月19日	： 第一回座談会@公民館	18名	
10月27日	： 第二回座談会@鹿部リゾートシェアサロン	8名	
11月9日	： 第三回座談会@間歇泉公園	4名	小計 67名
11月30日	： 「いまシカ！」を開催 参加者	23名	
			総合計 90名

(2) 論点

① 津波発生時の避難先や町中心部での防災機能をどの程度求めるかという防災上の論点

- ・ 冒頭から「津波が発生した場合の対応をどう考えているのか」「旧庁舎を避難場所とする想定なのか」といった、防災・減災に関する質問が複数の参加者から出された。
- ・ 参加者の多くは、旧庁舎を津波避難施設として活用するためには大規模な耐震・防災改修が必要となり、多額の費用を要することを懸念しており、「避難場所としては想定しない前提で議論すべき」との意見で一致したテーブルもあった。
- ・ 一方で、別のグループでは「坂の上の新庁舎までは高齢者が徒歩で避難するのは困難である」「町の中心部にも“とりあえず逃げられる場所”があると安心する」との声があり、旧庁舎の屋上部分や上階を簡易な津波一時避難スペースとして整備する案も示された。
- ・ 総じて、住民は防災への必要性は認識しているものの、老朽化した建物に新たに高規格の防災機能を持たせることには慎重であり、「費用を抑えつつ、現実的な避難の選択肢を町の中心にも残す」という方向性が望まれていることが分かった。

② 老朽化が進む旧庁舎にこれ以上どの程度の公費を投じるのか、またこれまでの役場側の対応や情報開示のあり方への不満という財政・説明責任上の論点

- ・ 旧庁舎については、「ここ数年使われていないのになぜそのままになっているのか」「要望を何度も出したが町が動かなかつた」という、役場側の対応の遅れに対する不満が複数の参加者から表明された。とくに、内部に備品や絵画が放置されたままであることや、整理が進んでいないことについて「早く片付けるべきだ」「動きが見えないから不信感が募る」という指摘があった。

- ・ 費用面については、取り壊しに1~2億円規模の費用がかかる見込みであること、改修して避難所化する場合も多額の予算が必要となることが共有されると、ほぼ全てのグループで「できるだけコストをかけない形で活用すべき」という共通認識が示された。
- ・ 具体的には、①更地化して低コストの広場にする案、②現状建物は最低限の水道・電気のみ整え、貸しスペース等として小さく使う案、③プレハブやコンテナを用いて“建物に大きくお金をかけない”活用をする案、などが挙げられている。
- ・ 一部参加者からは「官民連携で維持費を折半すればよい」といった前向きな意見もあったが、多くは「これまで十分に使ってこなかった建物に多額の町費を投入することには賛成しにくい」という姿勢であり、まずは町から過去の経緯・費用見込み・活用の前提を透明に示すことが求められている。

③ 旧庁舎周辺を「町の真ん中で、日常的に行きやすく、行事の思い出がある場所」と捉える住民の生活圏・地域アイデンティティ上の論点

- ・ 参加者からは、旧庁舎周辺が「町の真ん中であって行きやすい場所」「盆踊りなど地域行事が集まるなじみの場所」として認識されていることが確認できた。新庁舎が高台にあり「遠くて行きづらい」「車がないと行けない」と感じる住民にとっては、旧庁舎周辺の方が生活圏に近く、日常的に立ち寄れる“安心できる場所”として位置付けられている。
- ・ また、旧庁舎の近隣住民からは「子どもが遊べる広場がこの市街地に少ない」「フリーマーケットやマルシェを開ける場所がない」との意見が出ており、中心部の貴重なオープンスペースとして期待されている側面もある。
- ・ さらに、移住者や文化活動をしている住民からは、旧庁舎が「人と人がつながる入口になり得る場所」「鹿部の歴史写真や資料を展示できる場所」として語られており、単なる行政施設跡ではなく、地域の記憶や行事が蓄積された“象徴的な地点”としての意味合いが強い。したがって、住民は必ずしも大規模な機能を求めているのではなく、「町の中心にある開かれた場として、きちんと手が入り、使われている状態に戻ってほしい」という思いを持っていると言える。

(3) 座談会・ヒアリングから見出した利活用方法

【案1】 解体 → 公園化

① しかべみんなの広場（取り壊し案）

子どもたちが気軽にもっと遊べる公園を作り、
コストを安価に収めた公園。

子どもが遊べる広い広場



子どもにもっと土に
触れてほしい

気軽に駐車できる
スペース



小さなフリマや
マルシェを開ける広場を



コストをかけるべきではない

建物は津波でどのみち危険だからいらない

子どもたちが遊べる公園が市街地に少ない

函館に買い物に行けるからショ
ッピングモールはいらない

- 「もう建物として使うのは難しい」「お金をかけて残す必要はない」という意見から生まれた。
- 建物が古く、雨漏りや漏電など老朽化が進み、耐震性も不足しているため、修繕費が高額になる懸念があった。
- 「更地にして草地や広場にすれば、誰でも使える」「子どもが遊べる場所が町の中心にほしい」という声があった。
- 高齢化で体を動かさず場や散歩できる公園のニーズも出ていた。

【案2】 解体 → 公園+プレハブ

② しかべみんなの広場 + プレハブ

プレハブも活用しながら、子供が遊べる場所が欲しい。
子どもだけではなく、多様な人が繋がるコミュニティスペース。

子どもが遊べる広い広場



人と人とのつながりが生まれにくい
あるものは活用した方がいい



プレハブ小屋をコミュニティスペースに



- 町の中心地だからこそ「建物は壊してもいいが、何もなくなると寂しい」
- せめて「雨風をしのげるくらいの小屋や集会所がほしい」という意見。
- 「何かしらの機能は残して欲しいが、そんなに大きな建物はいらない」「維持費のかからない形で更地じゃない方法で残せないか」との声を受け、プレハブをたて、低コストで抑える案が出た。
- 「盆踊りやマルシェを開ける広場と、休憩できる小さな小屋があればいい」という発想から生まれた。
- 「津波避難所にはしなくても、最低限集まれる場所があると安心」という発想も背景にある。

【案3】 リノベーション → 人と人のつながりを生む文化施設

③ 人と人のつながりを生む文化施設（リノベーション案）

鹿部町内の「人と人のつながりが生まれにくい」という課題から生まれた案。アートや文化を通して町民がつながるコミュニティスペース

リサイクルできる場所をつくる



同じ趣味の人が集まれる
コミュニティスペース



アマチュアアーティスト
が開ける貸しギャラリー

文化やアートを
基盤にしたい

町民が文化的な活動を
やれる場

若い人が集まる工夫
→若い人が帰ってきたく
なる街にしたい

そこに行けば
誰かと繋がる場



芸術品を見たり
買ったりできる場

<https://minagarten.jp>

- 「町の中心に人が集まる場所がほしい」「旧庁舎は昔から集まりの場だった」という声が複数あった。
- 老人クラブや地域行事の拠点だった記憶があり、「もう一度、人がつながる場所にしたい」という願いが表れた。
- 「新庁舎は遠くて行きづらい」「旧庁舎のほうが生活圏に近い」という住民の生活実感が背景にある。
- 町民・学生・移住者などが交流できる“開かれた文化の場”としての再生を求める声につながった。

【案4】 リノベーション → 時代を超えて歴史をつなぐ資料館

④時代を超えて歴史をつなぐ資料館（リノベーション案）

子どもが集まったり学んだりできる場所がない。鹿部の歴史が集まっている場所がないという意見から、鹿部の歴史を未来につなぐ、子どもが集まり学ぶ施設。

子どもが集まるような場所



地元の野球選手の
資料館

見学、体験型施設
昆布狩り、飾りづくり



まちの昔の写真を
展示したい

子どもが集まる
鹿部歴史資料館

<http://www.umihaku.com>

<https://www.nebuta.jp/warasse/event/event-list.html>

- 「旧庁舎には町の歴史が詰まっている」「昔の写真や絵画を展示できる場所にしたい」という発言があった。
- 今の鹿部町の課題として、鹿部町の漁業や暮らしの歴史を記録として残す場がないことへの問題意識も共有された。
- 「子どもや孫に鹿部の昔を知ってもらいたい」という高齢者の声が多かった。
- 文化・教育的な側面で、町の“記憶をつなぐ拠点”としての活用を望む意見があった。

【案5】 建て替え → 防災施設や観光客向け施設

⑤ 鹿部の未来をつくる建て替え案

町民向け

観光客向け

屋上

防災設備・施設

最上階に防災タワー

3F

スポーツできる

例) モルック・フロアカーリング
エクササイズできる場所

病院は足りている
体を動かせたらいい
暑&寒でも遊べる場所

2F

飲食スペース

(コミュニティカフェ)

NEO食堂 (お酒とかも)

1F

人と人の関わりが少ない 夜までやっているお店が
一軒しかない

シケルペティーを
提供できるカフェ 伝統料理を提供したい ことも食堂
NEO食堂 (お酒とかも)

宿泊できる場所

宿泊施設の部屋数が足りない
イベントをしても少人数しか泊まらない

名産売る場所

鹿部町で働いているというこ
とを誇りに思えることに

お土産屋さん
→まちの名産を売れる場

温暖化で漁業に影響
サツマイモなどの農作物○

養殖所

海で魚がとれない時に生活の
基盤になるような
変化する海の気候に

1F

飲食スペース

(コミュニティカフェ)



カナダ
「ファーマーズマーケット」
<https://calgary.jp/farmers-market-south/>

2F/3F

スポーツできる

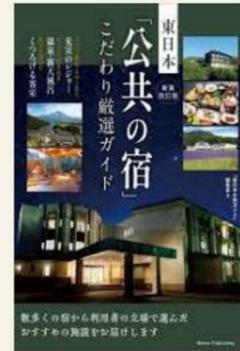
室内で子どもが体を動かせる



フロアカーリング



宿泊できる場所



休暇村

休暇村公式ホームページ(ベストレート保証)自然に...
国立・国定公園の中にある日本を代表するロケーションと豊かな自然に囲まれた全国35か所のリゾート「休暇村」。大自然の中で思い切り遊び、地元の食材を堪能して、温泉でゆったり...
休暇村公式ホームページ(ベストレート保証)自然にとまめりリゾート...

屋上

防災施設



平時は公民館などに



災害時には避難所に

- 津波や災害時の避難場所が不足しているという懸念から、「防災施設に建て替える」案が出た。
- 「高台の新庁舎までは高齢者が歩けない」「中心部にも逃げられる場所がほしい」という声があった。
- 一方で、「観光で来る人にも役立つ施設なら町の顔になる」という観光・交流の視点もあり、防災と観光を兼ねた複合施設への期待が一部から示された。

【そのほかの意見】

ア 養殖所が欲しい

- ・ 青のりを乾燥させる加工所など養殖施設としても使いたいという意見は漁業関係者から聞こえた。
- ・ 鹿部では漁協に出荷するのが基本で、漁師が組合を辞めると漁協が買い取らないという鹿部特有の事情がある。そのため、地元に魚が落ちない・地元で買えないという状況になっている。
- ・ 漁業は家族経営で続けているが跡取りが少ない。ホタテ漁などは夜中～早朝の重労働で若い人がやりたがらない。技能実習生を入れても期限があって長くはられないので、長期的な人材確保になっていないという不安が語られていた。
- ・ 養殖（昆布・ホタテ）は鹿部の将来の柱になりうる。天然昆布はもう3日で終わるくらい少なくなっていて、今は養殖が主流。種類が少ないから加工しやすい、という漁業側の実感があつた。

イ 事務所として使う

- ・ 新規に起業創業した企業などを入れて分割することで毎月の固定費をもらうことができるため、事務所として機能するのが良いのではないかという考えがあつたが、その代わり鹿部ならではの押しポイントがないといけないう批判の声もあつた。
- ・ 事務所を入れるなら、学校も一緒に統合し、北海道安平町の事例のように図書館と学校を一体とした形にするのはどうか。

ウ 娯楽・交流施設

- ・ 夜間営業の飲食店や居酒屋が少ない。交通手段（特にタクシー）が休日運休で使いづらいこともあり、夜は出歩かない町民が多いこともわかつた。
- ・ ゲームセンターなど娯楽施設がなく、気軽に集まれる場が不足しているという声は多い。

エ 買い物環境

- ・ 買い物施設が分散しており、一箇所でまとめて買える場所が少ない。
- ・ 特に高齢者層における「買い物難民」問題が顕在化しているという意見も多い。

鹿部町旧役場庁舎等周辺地域再開発プラン策定事業



旧庁舎周辺の

まちづくり座談会 参加者募集中！

9.18 木 18:00-20:00

場所 鹿部中央公民館（会議室）

申し込み不要です。当日お待ちしております。

開催の経緯

新庁舎が完成してから、はや5年。

旧庁舎は活用されることなく、今も静かに佇んでいます。

もう一度、この場所に人が集い、皆さまにとって特別な思い出が生まれる場所にしていきたい——。

そのために、どんな場所だったら良いか、皆さまの声を聞かせてください。

当日は市内の大学生とおしゃべりしながら、未来の鹿部町について議論を交わします。

【事業受託者・お問い合わせ先】
一般社団法人いとのこ（担当：下沢）
メール：a_shimozawa@itonoco.org

【事業委託者】
鹿部町企画振興課（担当：竹内）
電話：01372-7-5297
メール：m-takeuchi@town.shikabe.hokkaido.jp

鹿部町旧役場庁舎等周辺地域再開発プラン策定事業



大学生と！



旧庁舎周辺の

まちづくり座談会 参加者募集中

10.27 月 13:30-15:00



場所 ロイヤルシティ鹿部リゾート鹿部シェアサロン

参加申込は鹿部町企画振興課へ連絡願います。

(TEL: 01372-7-5297)

開催の経緯

新庁舎が完成してから、はや5年。
旧庁舎は活用されることなく、今も静かに佇んでいます。
もう一度、この場所に人が集い、皆さまにとって特別な思い出が生まれる場所
にしていきたい——。
そのために、どんな場所だったら良いか、皆さまの声を聞かせてください。
市内の大学生とお喋りしながら、未来の鹿部町について議論を交わしましょう。

【事業委託者】

鹿部町企画振興課 (担当: 竹内)

電話: 01372-7-5297

メール: m-takeuchi@town.shikabe.hokkaido.jp

【事業受託者・お問い合わせ先】

一般社団法人いとのこ (担当: 下沢)

メール: a_shimozawa@itonoco.org

鹿部町旧役場庁舎等周辺地域再開発プラン策定事業



大学生と！



旧庁舎周辺の

まちづくり座談会 参加者募集中

11.9 日 13:30-15:00

場所 道の駅 しかべ間歇泉公園

参加申込は鹿部町企画振興課へ連絡願います。
(TEL: 01372-7-5297)

開催の経緯

新庁舎が完成してから、はや5年。
旧庁舎は活用されることなく、今も静かに佇んでいます。
もう一度、この場所に人が集い、皆さまにとって特別な思い出が生まれる場所
にしていきたい——。
そのために、どんな場所だったら良いか、皆さまの声を聞かせてください。
市内の大学生とお喋りしながら、未来の鹿部町について議論を交わしましょう。

【事業委託者】

鹿部町企画振興課 (担当: 竹内)

電話: 01372-7-5297

メール: m-takeuchi@town.shikabe.hokkaido.jp

【事業受託者・お問い合わせ先】

一般社団法人いとのこ (担当: 下沢)

メール: a_shimozawa@itonoco.org

(4) 鹿部町二十歳記念式典参加者へのアンケート結果

- ・ 参加者のうち14名から回答をいただいた（うち鹿部在住が6名）
- ・ 望まれる施設像として最も多く挙げた意見は、「ショッピングモール・飲食店・ゲームセンターなどが一体となった大規模複合施設がほしい」というものであった。
- ・ この回答が全体の約7割を占めており、買い物・食事・娯楽が一か所で完結する利便性の高い拠点を求める声が強い。

2 11月30日『いまシカ!』について

(1) 趣旨

- ・ 本イベントは、旧庁舎の利活用に対する町民の理解促進と賛同形成を目的として実施した。
- ・ 現在、町民の多くが「旧庁舎がどのように活用されるのか」「本当に継続的に使われるのか」という具体的なイメージを持ちにくい状況にある。そのため、まずは実際に建物が活用される様子を可視化し、大学生を中心とした若い世代であり鹿部に住んでいない第三者である人たちと共に町民自らが“場を使い、場を開く”姿を示すことが重要であると考えた。
- ・ また、ワークショップで町内外の参加者から生まれたアイデアを公開し、町民から意見・感想・追加提案を受け取る機会をつくることで、旧庁舎活用案を「一部の人々が作った計画」ではなく、「町のひとと共に作る計画」へと発展させていった。

(2) 本イベントで行った企画

ア 1階・窓側展示「旧庁舎アート」

- ・ 来場者が旧庁舎の魅力を視覚的に感じられるよう、町民参加型の創作アートを配置。
- ・ 庁舎の持つ力強いストーリーを再提示し、町民が“ここはまだ生きている場所だ”と再評価するきっかけを提供。

イ 1階・元選挙管理委員会事務局室「旧庁舎エリア妄想マップ」

- ・ ワorkshopで集まったアイデアをもとに、旧庁舎と周辺エリアの“未来像”を表現。
- ・ 近隣住民、学生等の来訪者が自由に書き込みができる形式とし、地域の課題・希望・使い方の可能性を可視化した。

ウ 2階・議場「カフェと資料放送」

- ・ 議場をカフェスペースとして開放。
- ・ 来場者はくつろぎながら旧庁舎の歴史映像・活動記録を視聴した。

エ 2階・町長室「美術館展示」

- ・ 町長室をギャラリースペースとして活用し、地域ゆかりの作品を展示。
- ・ 旧庁舎が文化・芸術の発信拠点としても機能しうる可能性を示した。

オ 展望台「未来への展望台」

- ・ 最上階の展望台を解放した。

(3) 各企画で寄せられた意見等

ア 1階・窓側展示「旧庁舎アート」

- ・ 旧庁舎活用に関する座談会や来場者への聞き取りでは、多様な意見が寄せられた。
- ・ 旧庁舎前で声をかけた中学生がそのままイベントに参加し、約2時間にわたり議場で将棋を楽しむ様子が見られるなど、「なんとなく立ち寄って自由に過ごせる場」としての可能性が確認できたほか、利用者自身が思い思いの時間を過ごせる“ゆるい居場所”としての活用を期待する声があった。
- ・ 一方で、建物に対しては強い懐かしさを示す声が多く聞かれ、「やっぱり旧庁舎はいい」という愛着がにじむ一方、「かび臭さが気になる」と老朽化に伴う環境面の課題も指摘された。
- ・ 展望フロアの耐用年数に関する不安から、上層部を撤去し下層部を補強して使うといった部分活用の案も挙げられた。
- ・ 町の魅力については、自然や気候の良さをもっと発信すべきという意見がある一方で、過度なPRによる急激な来訪者増加を懸念する声もあり、地域らしさを守りながらの情報発信のあり方が課題として示されたほか、文化活動ができる工房や展示の拠点づくり、マルシェの開催、本屋や特徴ある図書空間への期待など、日常的に利用できる文化・交流機能を望む声も多く寄せられた。
- ・ 海へのアクセス改善や、裸足で歩ける砂浜など「遊びに行ける海」を求める意見、旧庁舎を壊すのはもったいないという声、議場のプロジェクションが良かったという感想もあったほか、展示に対しては「懐かしい」と肯定的な反応がある一方で、「ここで何が決まるのか」「今日は話し合いがあると思って来た」といった、今後の進め方や議論の場を求める声も見られた。
- ・ 全体として、旧庁舎への愛着と期待が強く、同時に活用の方向性や環境整備に対する関心も高いことが確認できた。



イ 1階・元選挙管理委員会事務局室「旧庁舎エリア妄想マップ」

- ・ ゲームセンターやフードコート、ショッピングモールなど、気軽に集まれる娯楽性のある場所を求める声があったほか、バスケットボールなどの軽運動ができるスペース、運動場のニーズも確認されたことから、“子どもや若者の居場所”の不足が、具体的な施設名とともに顕在化。
- ・ 公園、プレハブ小屋、マルシェなどを組み合わせた柔軟な屋外空間の提案が見られた。
- ・ 駐車場との両立は難しいとの意見もあり、屋外整備の優先順位や配置の検討が課題として挙げられた。
- ・ 展望台からの眺望を活かし、オーシャンビューの宿泊施設など、観光・滞在型の活用アイデアが提示されたほか、旧庁舎のロケーションを強みとして評価する意見が多かった。
- ・ 旧庁舎の耐震性・防災面への不安があり、住民向けのさらなる説明が必要との声があった。
- ・ 展望台へ向かう途中の屋上部分に、追加で防災施設を建設する案も提案があり、安心して利用できる仕組みづくりが今後の重要ポイントとして浮上。
- ・ 居酒屋や飲食店への強い期待が寄せられた。
- ・ 町外からの利用も視野に入れ、送迎サービスの必要性が指摘された。

【賛同投票】

来場者に賛同できる利活用方法について、賛同投票を実施したところ、資料館がもっとも多く、飲食店や公演コミュニティスペースなど人が集う場所が人気であった。

- 1位 (8票) 鹿部町の資料館
- 2位 (6票) 飲食店、居酒屋
- 3位 (5票) 気軽に遊べる公園、スポーツ施設
- 3位 (5票) コミュニティスペース
- 3位 (5票) フリーマーケット
- 4位 (4票) 町民が売り買いできるマルシェ
- 5位 (3票) 貸しギャラリー
- 5位 (3票) 防災施設
- 5位 (3票) ワークスペース
- 5位 (3票) 盆踊り
- 5位 (3票) 直売所
- 6位 (2票) ゲームセンター
- 6位 (2票) プレハブの小さなお店
- 7位 (1票) 駐車場
- 7位 (1票) 水産養殖所



ウ 2階・議場「カフェと資料放送」

- ・ まずは貸出料を無料とし、収益が出てから段階的に賃料を設定するなど、柔軟な運用が望ましいとの意見があった。
- ・ 「パン屋」を求める声が複数あり、既存店がリゾート地にあり距離があるため、町内で気軽に購入できる場所を望む声が強い。現在はスーパーや大沼の店からの仕入れに頼っているため、新規出店への期待は高い。
- ・ “学生主体のプロジェクトなのか”、“住民意見をまとめて終わるのか、それとも方向性まで示すのか”など、進行プロセスの見直しに対する疑問が挙げられた。
- ・ 旧庁舎が始動する際には、町民も継続的に関わりたいという声があり、「住民参加の仕組み」への期待が大きい。
- ・ 建物全体を一度に動かすのではなく、まずは一部屋だけでも良いので、早期に活動を始めるべきという意見が寄せられた。
- ・ 住民全員が同じ方向を向いていることを前提にするのではなく、先に意欲のある人たちで動き出すことで「旧庁舎で何かが始まっている」という雰囲気をつくることが重要との考えがあった。
- ・ 鹿部の魅力を大きくPRすれば移住や子育て世代の増加につながる可能性があるという期待する意見があった。
- ・ 一方で、大規模にPRすると「観光客が増えすぎて生活環境が乱れるのではないかと懸念する声もあり、地域らしさを守る観点から慎重な姿勢も見られた。
- ・ 中学生を中心とした若い世代からは、スポーツ施設（バスケットボール等）のニーズが高いことが確認された。
- ・ 「将来は一度町外に出るが、静かで住みやすい鹿部に戻りたい」という声があり、静かな生活環境が若者にとっても魅力になっていることが分かった。
- ・ 「今日はお堅い感じもなく、ストーブを囲みながら他愛もない会話ができた。中学生も同じ空間にいて遊んでいて、そんな誰でも集えるような場、そこにはいるけど何をしても良い場みたいなゆるっと集まれる町民の拠り所が求められているような気がした」



エ 2階・町長室「美術館展示」

- ・ どの作品をみても町民が「素敵だね」と自分たちのまちの風景をみてくれていたように感じた。
- ・ 「勿体無い」という意見が多く、もっと活用できたらと感じた。



オ 展望台「未来への展望台」

- ・ 旧庁舎の展望台は、イベントで特別に立ち入ることができるが、日常では簡単に入ることができない場所である。一方で、外からもよく見えるランドマークとなる場所でもある。
- ・ 展望フロア自体に初めて立ち入った町民の多くが感動の声をあげ、また、鹿部小唄の踊りを踊る方もいた。外観から見える目立った変化はないが、この体験をした町民は展望台を見るたびに楽しい思い出が想起されると期待する声があった。



※ イベント全体を通して運営した学生スタッフからの意見等

- 鹿部町の町民の方でも旧庁舎の中を見るのは初めてという人が多かったため、中を案内するたびに「こんな物があったんだ！」と感動している姿が見られた。このイベントを通して、より旧庁舎について町民の方が考えるきっかけになったのではないかと感じた。
- 展示を見る際に自然に人が集まっていた状態が良かったと感じた。昔の話や現状で困っていることを町民の人同士で話し合っていて盛り上がっている空気がとても良かったと思う。たくさんの方が「この意見いいね！欲しい！」と言ってシールを貼ってくれたことが嬉しかった。
- 展示の担当をしていた際に町民の方が私に「この問題を話し合うには、若い人の意見や若い人が行動しているということが何よりも町にとって大切なことだと思う」と言ってくれた。
- 中学生もこのイベントに来てくれたという点は大きかったと思う。今までの座談会では年齢層が高い人の意見を聞くことが多かったため、中学生の視点は新鮮だった。中学生にも旧庁舎の中を知ってもらうことが出来る機会になったことが良かったと思う。
- 町長に資料館へ案内した際に、「もともとここは俺の部屋だったんだ」と紹介してくださり、久しぶりに机の引き出しを開けると「俺、これも忘れてたのか！めっちゃ大事な写真じゃん！」と言っていたこと。
- 自然と明るい意見や未来についての話題を出してくれていたことが嬉しかった。
- 「歳だから動かない」や「行政がやるべき」といった考えではなく、自分にできることで地域に貢献しようとする姿勢が、個人的にとっても素敵だと思った。
- それぞれいろいろな思いがありながら、鹿部を活気づけたい、これからもみんなが住みやすい町にしたいという思いは共通して感じられた。
- 入場直後にシールを書いた人と会場を回った後に書いた人で、書く分量やスピードに差があった気がする。後者は特に楽しそうに取り組んでくれた。庁舎内を回り様々な展示を体験して、庁舎に対する感じ方に変化があったのではないか。
- お年寄りの方々が特にそうだったが、こちらが質問をすると楽しそうに返してくれた。自分が培ってきた技術や知識を他人のために使いたい、という層が一定数いるのだろうと感じた。
- ヒアリング会のときより圧倒的に鹿部及び旧庁舎へのマイナス意見が少なかった。実際に庁舎へ入ってみて思い出に浸る機会があった方がいいと思う。
- 中学生がこのイベントに来てくれたことが嬉しかった。通行人はそれなりに見かけたが、わざわざ足を止めて楽しんでいってくれた若者がいることが嬉しい。シールの内容も今まで見かけない類いのもの（バスケのコート設置、フードコート）が見られて、世代や立場によってこうも違う発想が出るのかと驚かされた。
- 町民の拠り所、たまり場はもっと必要だと思った。人口が小さめな分知り合いによく遭遇するから、今回のカフェのように座ってゆっくり話せる場所があると喜ばれそうだと感じた。町民どうして話しているときの雰囲気はすごくよかった。に関わった

- 付箋の展示（今までのワークショップの成果等）をじっくり見てくれた人がいた。そんなこともあったなあと参加者が振り返ってる感じがいいなと思った。
- 資料館目当てで来たという人が何組かいた。ワークショップでも出た意見だし、ちょっとだが実現できてよかった。
- 展望台が人気だった。天気も良く、山も海もきれいに見えていることもあり、初めて入った人にはとても印象深い場所であった。
- 参加者はまたこのイベントを期待していた。何度もやることに意味があると言っていた。
- 最初に展示を見ている反応としては「私には関係ない、誰かがやってくれる」というような他責的な印象を受けたが、議場カフェや展望台、展示を体験して、最後戻ってくる時に自分ごとのように旧庁舎の未来を考えてくれるように変わる町民の姿は印象的だった。
- 旧庁舎は町民にとって憩いの場であるという雰囲気がとても伝わってくるようだった。

(4) アンケート結果について：回答数は11名

問1：お名前を教えてください

記載省略

問2：住んでいる地域を教えてください

七飯町	1
鹿部町	10

問3：今日のイベントの満足度はいかがでしたか

とっても満足	8
まあまあ満足	3
普通	0
不満足	0
回答したくない	0

問4：1番心に残った企画はどれですか

旧庁舎展望台アート	7
議場カフェ	4
旧庁舎1階アート	1
座談会の展示	1
資料館	1
その他	0

問5：あなたの思う旧庁舎周辺の未来は次のうちどれですか（複数回答可）

リノベーションしてコミュニティスペース	7
リノベーションして歴史を繋ぐ資料館	4
フリースペース	3
養殖施設	2
スーパーマーケット	2
立て直して観光客向けの施設に	3
更地にして公園	1
立て直して防災施設	0
コンテナハウスをたててコミュニティスペース	0
その他	0

問6 活用された場合、使いたい・出入りしたいと思えますか

毎日使いたい	2
たまに行きたい	8
わからない	0
あまり行かない	0
全く行かない	0

問7 旧庁舎周辺エリアの再開発には賛成ですか

賛成	8
条件付きで賛成	3
わからない	0
反対	0

問8 自由に本日のイベントの感想や旧庁舎周辺エリアに対しての意見などを教えてください

- ・ 思っていた以上に楽しかった。
- ・ 展望台が予想以上にきれい。
- ・ とても楽しかったです。
- ・ 人が優しくいい思い出ができました。
- ・ 周辺にバスケットコートがあれば人が集まると思います。
- ・ 色々案内してもらって楽しかった。
- ・ 前に進むことを願っています。
- ・ 町誌資料動画よかった
- ・ フリースペースみたいで楽しかったいろいろな話ができ良かった展望台登って嬉しかった

鹿部町旧役場庁舎等周辺地域再開発プラン策定事業

今の鹿部を知るイベント

いまシカ！

2025

11.30

@鹿部町旧庁舎

まちづくりワークショップの成果を発表する展示&実験イベント！
これまで出たアイデアを実際にやってみます！！
【未来地図展示やカフェ企画】 【シケルペティーX大学生カフェ】など
旧庁舎を活かすアイデアを募集しています。

—— 鹿部町の”いま”を知って、“これから”を一緒に考えてみませんか？ ——



いまシカ展示

ワークショップの意見を展示します。
どんな成果が出たのか、
”いま”の鹿部町をご覧ください！



無料！

シケルペカフェ with大学生

健幸茶の会のシケルペティーが飲める！
大学生による1日限定のカフェです！



活きる旧庁舎 プロジェクト

鹿部町旧庁舎があら、ふしぎ！かわいい！
旧庁舎をデコレーションしながら、
旧庁舎周辺に対するご意見を
あなたも展示できます！



資料館

旧庁舎に残されていた
絵画やポスターを展示しています。
今まで眠っていた素敵な作品を
ご覧ください。

【事業委託者】

鹿部町企画振興課 (担当：竹内)

電話：01372-7-5297

メール：m-takeuchi@town.shikabe.hokkaido.jp

【事業受託者・お問い合わせ先】

一般社団法人いとのこ (担当：下沢)

メール：a_shimozawa@itonoco.org

③ 旧庁舎等周辺エリアマップと今後の展望

1 エリアマップ

- ・ 町民から寄せられた多様な意見を踏まえ、「いまシカ！」での対話内容も反映したマップを作成した。
- ・ その結果、旧庁舎に求められているのは、単一の用途ではなく、日常的にも非常時にも多様な人が集い、安心して利用できる“まちの中心的存在”としての役割であることが明確になった。
- ・ 多くの町民がまず望んでいるのは、幅広い世代が立ち寄り、自然と人と人がつながるコミュニティスペースとしての機能である。
- ・ ここで過ごす時間や交流が新たな賑わいを生み、町に活気を取り戻す場となることへの期待が大きい。
- ・ 一方で、災害時に安心して避難できる安全拠点としての役割も求められており、庁舎の構造や設備に対する不安の声も聞かれたほか、展望台の景観を生かした観光客向けの宿泊施設や、町の歴史や文化を伝える資料館としての機能もほしいという意見が複数あがっている。
- ・ これらの声を総合すると、「何かひとつの用途に限定した施設」ではなく、コミュニティ・防災・観光・文化などが緩やかに共存し、様々な立場の人が行き交う“まちなかのハブ”となることが望まれているといえるほか、町民からは、旧庁舎がそのような多機能な中心地として再生することに強い期待が寄せられていた。



2 今後の事業展望（案）について

旧庁舎を「過去の建物」から「地域の未来をつくる拠点」へと再生するための実践的プロセスである。今後は、①現状整理と町民の声を踏まえたアクションプラン策定、②協議会の設立による行政・住民・学生等の協働体制づくり、③実際の庁舎利用（マルシェやカフェ等）を通じた社会実験、④地域おこし協力隊等による人材確保と育成、という4つのステップで進める。これにより、単なるハード整備にとどまらず、町民が主体的に関わりながら「使われている状態」を生み出すことができる。

【事業展望（案）】

